

うんてい 【中学年4 - (1)】

- 自分の生活と重ね合わせ、道徳的価値に迫る取組み -

(1) 主題名 きまりを守って [4 - (1)] 関連項目 [1 - (1)]

(2) ねらい 人に迷惑をかけず、社会のきまりや公徳を大切にしようとする態度を養う。

(3) 資料名 「うんてい」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 休憩時間の自分の生活について考える。	休憩時間にする遊びでどんな遊びが好きですか。 ・一輪車 ・ドッジボール	自分たちがしている遊びについて考えることで、資料への関連付けをする。
展開	2 資料を読み、話し合う。	誘い合って、うんていまで走っているとき、ゆうたろうはどんなことを思っているでしょう。 ・早く行かないと、他の人にとられてしまう。 ・時間いっぱい遊びたいから急ごう。 ・今日も楽しく遊ぼう。 ふみとゆりに注意されたとき、ゆうたろうはどんな気持ちだったでしょうか。 ・気をつけて遊べばあぶなくない。 ・うるさいことばかり言う人たちだな。 ・誰にも、迷惑かけてないからいいよ。	これまでの生活経験等を思い起こしながら主人公の心情に共感させる。 主人公の気持ちによりそって考えさせる。
	3 思わず顔を見合わせた主人公の心情について考える。	思わず顔を見合わせながら、ゆうたろうはどんなことを考えていたでしょうか。 ・ぼくたちがきまりを守らないから、けがをさせてしまった。 ・きまりを守らないと、他の人に迷惑がかかるんだ。	ワークシートを配布し、書く活動を取り入れることにより、主人公の気持ちをじっくりと考えられるようにする。
	4 今までの自分の生活を振り返る。	きまりを守れて良かったと思うのはどんなときですか。	自分の生活を振り返ることで、そのときの充実感やよろこびに改めて気付くようにする。
終末	5 教師の説話を聞く。	・きまりを守ることは、みんなのためなんだね。	今後への意欲を高めることのできる話をする。

うんてい

『学校のきまりや遊びのルールを守りつつ、今から休けい時間ですが、今月の生活目標は、ですね。よく考えて行動しましょう。』

ですね。よく考えて行動しましょ。

先生のお話も終わり、休けい時間になりました。今、階段の下では、うんていの上を歩く遊びがはやっています。うんていは少し高いけれど、そこをじんばりと歩くのはスリルもあって、やうたろうはこの遊びが大好きでした。休けい時間になると、さそい合ってうんていまで走っていきます。

おひつじがひづれを歩こうとしたが、ふみとひづれがひづれを歩こうとした。

あぶないわよ。」「

「リルがあつていいんだよ。」

「きまりをやぶつたら、先生におこられるわよ。」

「かくじなご」

一人が行つた後も、ゆうたらうたちは、ずっとうんていの上を歩いて遊んでいました。

次の休けい時間、少しおくれで、ゆうたろうたちがうそでこに行へと、一年生が集まつています。その中で女の子が一人なっています。

傳記の研究

「よつちやんが、うんてこから落ちたのよ。見て、うんてこにたくさん十がつこでいるで

「ああ、おやじさん、あの土で手をすべらせた落葉でじまうたの」

(ほくたちのせこだ。ほくたちがうそてこの上を歩いたか、への底元の十がうそてこに
ついたんだ。)

ゆうたゆうたちは思わず顔を見合わせました。

活用に生かすための実践報告

「うんてい」

1 主題の設定

社会の一員として、他者と共に生きるには、公共心・公徳心を持つことが必要である。公共の物を大切にしたり、人に迷惑をかけたりしないといった公徳心がなぜ大切なのか、自ら理解し、実践しようとする心情を育てたいと考え、本資料を作成した。

学校の生活目標や学級目標等と関連付けて本資料を扱うとより効果的だと考える。

2 指導過程の工夫

導入については、自分たちの遊びについて振り返ることで、資料への導入としたが、「心のノート」(P69)を使用しての価値への導入も考えられる。

書く活動を取り入れて、主人公の心情に共感させる展開であるが、役割演技等を用いても効果があると考える。

終末については「心のノート」(P69)の活用も考えられる。

3 発問の工夫

主人公の心情にそって、発問を構成した。中心発問では、思わず顔を見合せたときの主人公の心情について、しっかりと共感させて考えることができるよう話合いのし方を工夫してほしい。

また、展開後段での一般化については、学級の児童の実態をよく把握し、これまでの体験が引き出せるよう発問を工夫してほしい。

4 児童の反応（授業後の感想）

- ・ 素直に注意を聞いて止めればよかった。他の人がけがをすることがあるなんて考えもしなかった。
- ・ 自分が楽しいからと言って、きまりを守らないと他の人に迷惑がかかる。今度からしっかり考えて遊びたい。
- ・ やめた方がいいと分かっていても、楽しい遊びはなかなかやめられない、なんとか迷惑がかからないよう工夫して続けたい。
- ・ 授業後、自分たちの生活を見つめ、普段教室でしている遊びについてあぶなくないよう、人に迷惑をかけないようルールを変えたり、人に迷惑をかけるような遊びを見たら注意をしたりするすがたが見られた。

5 実践者からの一言

以前実施した、規則尊重に関わる授業の一般化で出された児童の体験をもとに作成した資料である。ずいぶん前のことなので、その時の気持ち等については、教師の期待ほど思い出されなかったが、現在自分たちが夢中になっている遊びに関わることにおきかえての意見が多く出された。事後に自分たちがしている遊び等について考え直し話し合うこともできた。児童にとって自分たちの生活を振り返り、見つめることができやすい資料であった。

(警固屋小学校 胡 敏和)